日の出の森・支える会ニュース
2024.8
No.53

「日の出の森・支える会」は、東京都西多摩郡日の出町にある巨大な処分場が引き起こした環境汚染から、自分たちの生命・健康を守るとともに、ごみ問題の真の解決を願って立ち上がった地元住民運動を支援することを目的として、1994 年に発足し

PFAS 汚染の原因は何だろうか？

日の出の森・支える会　副代表　大沢　豊

■ PFAS 問題は全国に広がっている

8 月 17 日に「PFAS オンライン全国交流集会」というのが開かれました。主催は「多摩地域の有機フッ素化合物汚染を明らかにする会」でした。立川市内の会場には 50 人以上の参加者があり、全国では 85 カ所のオンライン参加者が約 200 人が参加しました。報告者は沖縄、熊本、広島、岡山、兵庫、大阪、京都、三重、岐阜、愛知、静岡、神奈川、東京、千葉、青森の 15 都府県、17 地域から汚染の実態や活動の報告がありました。

米軍や自衛隊だけではない地域からの報告があり、産業廃棄物や半導体製造工場稼働の不安や、PFAS を吸着した活性炭の不適切な管理からの汚染、PFAS 類の製造工場周辺の汚染、原因が不明の地域、2000 年まで泡消火剤を製造していた工場の排水、フッ素樹脂製造工場からの排水など様々な場所からの水汚染が報告されました。気になったのは米軍基地や自衛隊基地由来ではない PFAS 汚染の原因でした。

■「土壌中の PFAS 類の測定方法」を環境省が発表

そんな中、2023 年 7 月に環境省が「土壌中の PFOS、PFOA 及び PFH x S の暫定測定法」を発表しました。環境省はこれを「暫定測定方法として各自治体に周知する」としていますが、私たちの自治体はこのことを認識しているのでしょうか。しかし沖縄県はこの方法を用いて昨年度に県内の41市町村の各1地点の土壌の調査を行いました。

■沖縄では基地のない地域からも PFAS 類検出

今年の 4 月に沖縄県はその結果を公表しました。これによると米軍基地が無い「一般的な土地」からも高い値が検出されています。これに関して京都大学の原田浩二准教授は、「PFAS 類は製造が禁止されているが、倉庫などに保管されていたりする、立体駐車場などでは泡消火剤が残っているケースもある、撥水加工をしたフライパンや水をはじくアウトドア用のアウター、同じく水をはじく塗装がされた車両もある。そうしたものが剥がれ落ちたり、雨に溶けたりして、河川や土壌に流れます。揮発性の PFAS が大気中に浮かんで、土壌に落ちることもある。全国どこにでもある可能性がある」としています。

■ごみの清掃工場や廃棄物処分場ではどうか

PFAS 類は分解するのに 1500℃が必要だと言われていますが、清掃工場ではごみ焼却温度は約 980℃前後です。燃やしたごみの中の撥水加工をしたカーペットなどの繊維類、撥水加工をした食品ペーパーなどには PFAS 類が含まれている可能性があり、熱で分解しないまま焼却灰に含まれ処分場へ運ばれているはずです。日の出町にある処分場では水質調査の「人の健康の保護に関わる項目」に P FAS 類の調査も加えて測定したらどうでしょう。

あるいは各自治体の清掃場周辺では焼却時にバグフィルターをすり抜けた PFAS 類が拡散、沈着している可能性もあります。工場周辺の土壌調査をしてみる必要があるのではないでしょうか。私たちは「PFAS は水の問題」だと考えていましたが、実はもっと身近な土壌にも存在している可能性があると思われます。

【連絡先】〒190-0011 東京都立川市高松町 2-19-1　Tel/Fax 042-523-7297
ホームページ： http://hinodenomori.main.jp　E-mail： hinodenomori@tokyo.email.ne.jp